

議会
市議
寄算
名決

児童虐待は10件

児相などと情報共有し対応

【名寄】名寄市議会平成28年度決算審査特別委員会(高野美枝子委員長)は26日に再開され、午前は一般会計の民生費、衛生費で質疑を行った。

佐久間誠委員(市民連合・凜風会)は要約筆記奉仕員養成事業の事業成果などで質問。

柴野武志社会福祉課主幹は「奉仕員養成で講座を開講しているが、手話に比べ受講希望者が少なく、27年度はできなかったが、28年度は開講。今後も講座の開催周知に努めたい」。また、手話奉仕の利用者との配置のマッチングについて、柴野主幹は「個別対応も

可能だが、講演会などではスクリーンに投影し大勢の人に見てもらえる形で実施」。東川孝義委員(市政クラブ)は、町内会ネットワーク事業(名寄市社会福祉協議会へ委託)で、28年度の事業費増(85万2000円増)の理由や民生委員・児童委員の充足率で質問。

民生委員・児童委員の充足率で、鈴木社会福祉課長は「定数98人のところ96人と、2地区で欠員となっている。なり手については各町内会へ協力を要請していく」。

高橋伸典委員(公明)は、生活困窮者自立支援事業(社協委託)で質問。

鈴木社会福祉課長は「28年度の新規相談件数は59人。このうちプラン作成が7人で、現在は27年度継続分も含め17人を支援。相談者は50代以降が多く、電話による匿名の相談も2割ほど。相談内容は収入、金銭に関わるものが半数。相談は電話

や社協、ぼっけ、地域包括の窓口で受けたり、民生委員を通じて寄せられている」と答弁。

山崎真由美委員(市民連合・凜風会)は、遠距離通園・通所費助成事業で質問。

西村宣幸(こども未来)課長は「28年度は33世帯に助成を実施。智慧文地区から名寄地区へ、風連地区から名寄地区へ、名寄地区から風連地区への通学があるが、全て本人の希望によつての通所・通園となっている」。

希望以外の保育所に入所後の移動で、西村(こども未来)課長は「8月に再度、雇用証明書などの提出を求めるとともに、別の保育所への転出希望を聞いていたが、保育の環境を変えたくないというケー

スが多い」とした。川村幸栄委員(共産)は、家庭児童相談事業で、増加する児童虐待の中で、半数を占める心理的虐待への対策で質問。

西村(こども未来)課長は「児童虐待として28年度は身体的3件、心理的7件の計10件あった。このうち面前DVは4件。面前DVや心理的虐待のケースは、担当課に直接来るケースは少なく、警察や児童相談所を通じての報告。対応として、小学校や保育所などで虐待が疑われる状況の報告を受けながら、ケース会議を通じ、家庭訪問なども実施。今後も児相や学校など関連団体と情報共有しながら、子どもの保護を優先して行っていきたい」とした。

(問所)